

2008年8月5日
 日本郵政株式会社
 郵便局株式会社

“JP MUSIC”第2弾 音楽CDアルバム「手紙日和2 ～思い出の扉～」を発売

～50歳以上のシニア層が選んだ“手紙にまつわる懐かしい名曲”を収録～

日本郵政株式会社(東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 CEO 西川 善文)は、このたび、手紙文化のさらなる振興を目的として、“JP MUSIC” 第二弾となる新作音楽 CD アルバム「手紙日和2～思い出の扉～」を企画しました。

また、郵便局株式会社(東京都千代田区、代表取締役会長 CEO 川 茂夫)は、本 CD アルバムを、フレーム切手&エンタメカタログ「エンタメポスト」を通じ、全国の郵便局で販売します。

1 音楽CDアルバム「手紙日和2～思い出の扉～」概要

- ① 本 CD アルバムの収録曲は、手紙を書くことから遠ざかりがちなこの頃、手紙の醍醐味をよくご存知の 50 歳以上のシニアの方々に、青春時代を振り返りながら、手紙を書くことの素晴らしさ、手紙をもらうことの素晴らしさを思い出していただきたいという思いが込められた選曲となっています。
- ② 50 歳以上の郵便局のお客さまや郵便局員等、シニア層約 2,800 人を対象に^{※1}、「手紙にまつわる好きな曲を上位 3 曲まで教えてください」とのアンケート調査を実施。人気上位 20 曲の中から選曲した 10 曲に、知る人ぞ知る隠れた名曲や、タイトルからはなかなか手紙が連想できない名曲 5 曲と、JP MUSIC オリジナルのインストゥルメンタル曲を加えました。
- ③ CD ジャケットの表面は、シリーズ切手「ふるさと心の風景」の題材にもなった画家原田泰治の作品「野良(のら)時計」を起用しました。また、裏面は、手紙のデザインになっています。140 円切手を貼って、宛名を書けば、そのまま郵便として差し出すことができます。

2 CDアルバム収録楽曲 (全 16 曲、14 アーティスト)

アーティスト名 「楽曲名」	(発売年)	アーティスト名 「楽曲名」	(発売年)
① 堺正章 「さらば恋人」	(1971 年)	② かぐや姫 「置手紙」	(1974 年)
③ ダ・カーポ 「結婚するって本当ですか」	(1974 年)	④ チューリップ 「悲しきレイン・トレイン」	(1975 年)
⑤ アリス 「秋止符」	(1979 年)	⑥ 因幡晃 「わかって下さい」	(1976 年)
⑦ さだまさし 「案山子」	(1977 年)	⑧ 森山良子 「この広い野原いっぱい」	(1967 年)
⑨ 由紀さおり 「手紙」	(1970 年)	⑩ ピンク・ピクルス 「あなたの手紙」	(1972 年)
⑪ 青い三角定規 「太陽がくれた季節」	(1972 年)	⑫ 八神純子 「パープルタウン」	(1980 年)
⑬ かぐや姫 「あの人の手紙」	(1972 年)	⑭ 太田裕美 「木綿のハンカチーフ」	(1975 年)
⑮ 吉田拓郎と LOVE2 ALL STARS 「我が良き友よ」(セルフカバー音源。オリジナルは 1975 年)			
⑯ JP MUSIC オリジナル曲 「手紙日和～思い出の扉～ Instrumental」			

3 発売開始日 : 2008 年 8 月 5 日

4 主な買い求め方法

- ① 全国の郵便局窓口に設置されるエンタテインメント通販カタログ「エンタメポスト」によるお申込み（販売価格 ¥3,000（定価 ¥2,400+送料 ¥600）
- ② JP MUSICオリジナルウェブサイト（<http://www.jp-music.jp>）からのお申込み^{※2}
販売価格 ¥3,000（定価 ¥2,400+送料 ¥600）
- ③ 店頭でのお買い求め（定価 ¥2,400 で販売）
 - ・ ポスタルショップ（日本郵政グループ本社 1 階、東京メトロ虎ノ門駅又は霞が関駅下車）
 - ・ JP ローソン
（日本橋郵便局内 8/6 オープン、美浜郵便局内 8/13 オープン、川越西郵便局内 8/20 オープン、平塚郵便局内 8/20 オープン、千葉中央郵便局内 8/27 オープン、印西郵便局内 8/27 オープン）等

4 その他

JP MUSIC 商品の販売元は、ミュージックセキュリティーズ株式会社（東京都千代田区丸の内）で、日本郵政株式会社はブランド（レーベル）の管理・運用、商品・イベントの企画を行っています。

以 上

※1 アンケートにあたっては、団塊世代を中心とした 50 歳以上のシニア層マーケティングのリーディングカンパニーである株式会社シニアコミュニケーション（東京都港区、代表取締役社長 山崎伸治）の協力の下、実施いたしました。

※2 オリジナルウェブサイトからお申し込みの場合、販売窓口は郵便局のショッピングサイト「ふるさと小包」（<http://www.postal-jp.com/psc/ws010d01.html>）となります。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

日本郵政株式会社

コーポレート・コミュニケーション部（報道担当）

電話：(直通)03-3504-4162 (FAX) 03-3504-0265

【参考資料】

- ・ CD 収録楽曲解説

(参考資料)

「手紙日和2～思い出の扉～」 収録楽曲解説

① 堺正章 「さらば恋人」

「昭和46年5月発売。かまやつひろし、井上順らがいたザ・スパイダースのリードボーカルをつとめ、40年代前半にヒットを連発したが、ザ・スパイダースは昭和46年1月に解散した。同年、堺正章1枚目のソロシングルとして発売された本楽曲は、オリコンチャートで2位になるなど大ヒットとなり、日本レコード大賞大衆賞を受賞。GS（グループサウンズ）時代を牽引した堺が、自ら時代に幕をおろし新たな音楽シーンに漕ぎ出したかのような作品であった」

② かぐや姫 「置手紙」

「南こうせつ、山田パンダ、伊勢正三からなるかぐや姫。「置手紙」は、昭和49年9月発売に発売された5枚目のアルバム『かぐや姫 LIVE』に収録されている。同アルバムは、オリコンチャートで1位を獲得。「神田川」で大ヒットを出して以来、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで絶頂期を迎えた彼らであったが、翌年に解散した。その後はそれぞれソロ活動を行い、つま恋でのコンサートや紅白歌合戦等においてしばしば再結成している」

③ ダ・カーポ 「結婚するって本当ですか」

「昭和49年6月発売。榊原まさとし・広子の夫婦デュオとして知られるダ・カーポ（音楽用語で「最初に戻る」。いつまでも初心を忘れないよという意味で名づけた）最大のヒットソング。デビュー当時はまだ夫婦ではなく、昭和55年に結婚。その後も『裸の大将』のテーマ曲「野に咲く花のように」やNHK『みんなのうた』の「宗谷岬」「よこはま詩集」といった数々のテレビ・映画主題歌を手がける。平成19年、デビュー35周年を機に、娘の麻理子を加え家族3人での活動を開始した」

④ チューリップ 「悲しきレイン・トレイン」

「昭和50年7月発売。彼らが初めてオリコンチャート1位を獲得した「心の旅」の歌詞に「ああ明日の今頃は僕は汽車の中」とあるが、その「汽車の中」での心境を歌にしたのが「悲しきレイン・トレイン」であるとの解釈もできる。本作品はファンの間で「隠れた名曲」との誉れが高い。チューリップは往年のファンのみならず、ドラマ「ひとつ屋根の下」に「サボテンの花」「青春の影」が起用されたことで、比較的若い層の支持も集めている。

⑤ アリス 「秋止符」

「昭和54年12月に発売された「秋止符」（しゅうしふ）は、同年から放送された『3年B組金八先生』の中で挿入歌として使用された。オリコンチャート最高4位。昭和46年に結成、40年代後半はヒットに恵まれず苦労していたアリスだが、「今はもうだれも」「冬の稲妻」「チャンピオン」等々、50年代前半に大ヒットを連発して一時代を築き、「秋止符」も昭和55年のロングセラーとなった。しかし、その翌年、それぞれのソロ志向によって活動を停止した」

⑥ 因幡晃 「わかって下さい」

「昭和 51 年 2 月発売。因幡晃は高校卒業後、鉱山技師として就職したが、ある日、仕事中の鼻歌からひとかけらのメロディと言葉を生み出した。そんなきっかけから誕生したのが「わかって下さい」だが、別れた恋人の気持ちを女言葉で綴ったその歌詞に込められた想いは深い。彼は本楽曲でレコードデビュー。いきなり 65 万枚の大ヒットとなる。また、ヤマハポピュラーソングコンテストで最優秀曲賞を受賞。世界歌謡祭でも入賞した」

⑦ さだまさし 「案山子」

「昭和 52 年 11 月にリリースされた曲だが、本アルバムの音源は後にさだ本人がセルフカバーしたものである。昭和 48 年にフォークデュオ・グレープの一人としてデビュー。翌年には「精霊流し」がオリコン 2 位になるなど人気絶頂を迎えるが、昭和 51 年に解散し同年にソロデビュー。翌年には「雨やどり (B 面は「絵はがき坂)」がオリコン 1 位になり、再びスターダムへ上りつめた。本アルバムのジャケットのイラストを描いた画家・原田泰治氏との親交が深い」

⑧ 森山良子 「この広い野原いっぱい」

「昭和 42 年 2 月にデビュー曲として発売。「涙そうそう」でレコード大賞特別賞を受賞する等、作詞の素晴らしさで知られる彼女だが、「この広い野原いっぱい」は自らの作曲であり、10 代にして作曲の才能、センスも非凡であったことがうかがえる。両親共にジャズミュージシャンであり、かまやつひろしが従兄という環境であった。21 世紀に入ってから国内外で息子の直太郎に負けず劣らずの精力的な活動を続けている」

⑨ 由紀さおり 「手紙」

「昭和 45 年 7 月発売。瞬く間に大ヒットし、レコード大賞歌唱賞を受賞、2 年連続で紅白にも出場した。前年に「夜明けのスキヤット」でミリオンセラーを達成し、スキヤットブームを起こした彼女が、一発屋で終わりたくないという思いでリリースした作品であった。その後も歌手活動において数々のヒットを飛ばすかわら、日本アカデミー賞助演女優賞を受賞するなどその多才ぶりを発揮。姉・安田祥子と少女時代に行っていた童謡歌手としての活動も再開した」

⑩ ピンク・ピクルス 「あなたの手紙」

「昭和 47 年 1 月発売。東京オリンピックのマラソンランナー円谷幸吉選手のことを唄い話題になった「一人の道」のカップリング曲である。ちょうどこの当時、ピンク・ピクルスのみならず、シモンズやチューイングム等、関西の乙女デュオによるフォークが次々と登場した。ピンク・ピクルスは同年解散。メンバーの一人である茶木みやこはソロアーティストとして、平成 20 年現在もライブにツアーに精力的に活動を続けている。

⑪ 青い三角定規 「太陽がくれた季節」

「昭和 47 年 2 月発売。ドラマ『飛び出せ!青春』の主題歌として親しまれた。ミリオンセラーとなり、郵便貯金ホールで記念リサイタルを開催。同年、『日本レコード大賞』新人賞を受賞し紅白にも出場したが、メンバーの方向性の相違により翌年 10 月には惜しまれつつも解散した。その後はそれぞれの活動等が続いたが、平成 20 年に二人のメンバー（西口久美子、岩久茂）で再開し、ライブ等を実施している」

⑫ 八神純子 「パールタウン」

「昭和 55 年 7 月発売。大ヒットとなり、その年の紅白に初出場を果たした。デビュー前から YAMAHA のポプコンや国際音楽祭などで評価を得ていた彼女は、昭和 53 年に「みずいろの雨」でブレイク。その圧倒的な歌唱力とそれまでに類例の少ない斬新な楽曲の魅力で人気を博していた。昭和 55 年の 4 月にアメリカへ旅立ち、約 2 ヶ月弱の滞在を経て、帰国後すぐにリリースしたのが本作品である」

⑬ かぐや姫 「あの人の手紙」

「昭和 47 年 4 月発売のアルバム『はじめまして』に収録されている「あの人の手紙」は、一般的な彼らのイメージとは異なる辛辣な反戦ソングである。とはいえ、「別れ」「恋」で反戦を表現する手法は、「なごり雪」「22 才の別れ」「置手紙」等、別れの恋の名曲を生み出してきた伊勢正三の真骨頂だといえるのかもしれない。本楽曲は、その彼の歌詞とハイテンポなギターストロークが印象的な南こうせつの曲によって構成されている」

⑭ 太田裕美 「木綿のハンカチーフ」

「昭和 50 年 12 月発売。ミリオンを記録したシングル。秀逸な作家陣の作品に太田裕美のハイトーンな可愛い声で切ない詞を歌い上げた、70's を代表するポップスナンバー。歌謡曲ともニューミュージックとも言える幅広い音楽性、そして天性の歌声は心地良く響き、多彩な作品は J-POP の至宝といえるだろう。今年デビュー 35 周年を迎え、現在も、ラジオのパーソナリティーや、この CD に 2 曲収録されている伊勢正三等とのユニット「なごみーず」でライブをするなど精力的に活動をしている」

⑮ 吉田拓郎と LOVE2 All Stars 「我が良き友よ」

「昭和 50 年 2 月に発売され、かまやつひろしが歌いミリオンセラーの大ヒットとなった「我が良き友よ」を、作詞作曲した吉田拓郎がセルフカバーしたものが本作品だ。バックバンドはテレビ番組の企画で集まった当代の一流アーティストの面々であるが、日本の音楽シーンを築き上げてきた拓郎がいたからこそ揃えることができたメンバーだと言える。その功績は語り尽くせないが、既存の枠組みや手法によらず創造することが持ち味の一つであろう」

⑯ 「手紙日和～思い出の扉～ Instrumental」

「JP MUSIC オリジナルのインストゥルメンタル曲。前 15 曲を聴いて次々と開いていった皆さまの「思い出の扉」をそっと閉じるイメージ」